# 2006年度VAD研秋合宿　研究報告発表要旨

## 9月23日(土)

**研究報告**

「J･Spillaneの Distributed Leadership 理論の課題と可能性」

北海道大学　篠原岳司

(コメンテーター：石黒広昭)

近年，分権化や開かれた学校づくりの改革が広がるにつれて，教育行政および学校経営における教育行政職員，校長，教員らの役割と期待が変容している。それに伴い，かつての教育制度，学校組織に関わる理論研究では，現在の教育改革ないし改善の組織的･制度的「実践」を分析することが困難になっている。本研究では，以上の背景より J･Spillane の Distributed Leadership 理論を取り上げ，現代的な教育制度，学校組織を的確に読み解き，そこにおける制度的･組織的「実践」のメカニズムを解明するための理論ツールの形成を追究する。

**データセッション**

「開かれた学校づくりにおける合意形成過程に関する研究」

北海道大学　渡辺宏輝

(コメンテーター：宮崎隆志)

学校運営協議会制度は、保護者代表、地域住民代表などが学校運営協議会での協議において学校長の学校経営方針に対して承認する権限を有するなど、形式的には一定の権限付与を伴った保護者、地域住民による学校運営参加を制度的に位置づけるものとして見ることもできますが、その成立過程などからみても様々な課題を抱えたものでもあります。

筆者は北海道における同制度の研究指定校から参与観察の機会を得ることができ、平成17年度10月から今日まで月1回程度開かれる協議を継続的に傍聴し、協議記録や協議の様子などを記録しています。また、これらのデータの分析にあたって社会文化的アプローチの手法などに学びながら、より実相に迫った研究になるよう取り組んでいます。

本報告においては、これらのデータの取り扱いや分析などについて VAD 研の皆様に検討および助言いただきたく思っています。

9 月 24 日（日）

パネルデータセッション

「幼児の摂食行為とその介助様式に関する研究」

立教大学　石黒広昭

本研究では、就学前施設の給食場面における幼児の摂食行為とそれに対する保育者の介助のあり方を微視的に分析したものを報告する。対象月齢は1歳台後半から2歳台を予定している。一歳台までの保育者の介助特徴と比べ、その後の介助にはどのような違いがあるのだろうか。幼児の食操作技能の変化に応じた介助様式の軌跡を捉えたいと考えている。

「幼児の食事行為の反復において進行する発達」

札幌学院大学　鈴木健太郎

保育園の給食は、園児にとって日毎行う反復タスクである。その反復を通した発達の仕方を、２歳前後の時期の園児の食事行動について微視的に分析したものを報告する予定である。タスクの反復を通して連続的かつ漸進的に進行する発達の姿について議論したいと考えている

研究報告

「学習テーマの生成過程における記録の意義～『パザパ』の学習実践に即して」

北海道大学　榊ひとみ

（コメンテーター：平沼博将）

本報告では、2005 年、札幌市で行われた「パザパ～それぞれの歩幅で～」（以後：パザパ）の実践における、特に第 4 期（第 13～15 回）に焦点をあて、学習実践の記録の意義を検討する。この実践は 2002 年に「カナダの子育てテキストを読む会・話す

会」が英語版『Nobody's perfect』シリーズ『PARENTS』を翻訳し、更にコメントをつけた学習成果物『PARENTS』（第1のテキストとする）を使用した学習実践である。パザパの学習実践中、筆者はメンバーの発話内容を録音し、その音声データの殆どを文字変換した。この文字変換された学習実践の記録（第2のテキストとする）は、学習展開区分の第4期（第13～15回）、3回にわたり、学習メンバーにフィードバックされた。これにより新たな学習テーマが生成された。この学習テーマの生成過程との関係において記録のもつ意義を明らかしたい。

## 9月25日（月）

データセッション

「遊びのコミュニティにおけるオルタナティブな学びの論理」

北海道大学　野島智司

（コメンテーター：森直久）

遊びによる学びと「教育」による学びとの矛盾を克服したオルタナティブな学びの場を構築することが現代社会において喫緊の課題となっている。本研究では、遊びのコミュニティにおけるオルタナティブな学びの論理を明らかにしたい。ただし、そのような遊びのコミュニティを現代社会に構築することは容易ではない。なぜなら、第1に子どもの遊び集団そのものが衰退している。第2に大人社会が高度に専門分化しており、大人の持つ専門性が開かれた場で表現される機会が失われている。それらのために、現代では大人の労働実践と子どもの遊びが共通の場でなされていない。筆者は、札幌市旭山記念公園での市民参加の公園作りとそこでの冒険遊び場づくり活動にそれら2つの要因を克服した遊びのコミュニティが構築される可能性を見出している。本報告では現在の調査経過を報告する。

データセッション

「障害児を支援する保育心理学」

福山市立女子短期大学　平沼博将

（コメンテーター：藤野友紀）

『保育心理学の基底：子どもの育ちを支援する保育実践研究の展開』の第4章の

草稿を検討していただければ有り難いです。

データセッション

「小集団内コミュニケーションにおける成員の位置取り」
あるいは「語りの形式による想起の起源の特定」
札幌学院大学　森直久
(コメンテーター：石黒広昭)
(前者)：ほぼ初対面の人々がコミュニケーションを繰り返すなかで、どのような組織化が起こるかを見る。
(後者)：語りの形式から体験の有無を特定できるかを考察する。

研究報告

「生活記録実践の学習論的意義」
北海道大学　宮崎隆志
（コメンテーター：森直久）
　戦後社会教育の原点とも言える生活記録実践については、意識変容の実態や実践の社会的意義についての分析はあるものの、そこにおける学習の展開論理に関する分析枠組みは、十分に詰められているとは言えない。報告では、生活記録実践に即して、対話的関係におけるスキーマ変容の論理という視点から接近し、活動理論との関連にも留意しつつ分析枠組みを提起したい。